Project	地域協働専攻　国際協働グループ
E03	**外国にルーツを持つ児童・生徒への 日本語学習と教科学習の連携を支援するプロジェクト**
メンバー	[学　　生]　晴山寧乃、鈴木飛雄馬、大橋恵那、阿部明歩 （協力者：中居美穂） [担当教員]　佐藤香織

【背景】

外国にルーツを持つ児童・生徒への日本語学習支援は日本語教育における大きな課題の一つであり、函館の小学校・中学校・高校には日本語学習支援を必要としている児童・生徒が在籍している。

また、今年度からは高校でも支援が加わったが、高校の学習内容は高度であり、日本語学習と教科学習を連携させた支援の重要性がより高まっている。

【目的】

・児童・生徒の日本語能力の向上
・支援実施者の日本語教育実践
・地域の教育機関・日本語支援との連携/　日本語学習と教科学習の連携

【概要】

函館市内の小学校、中学校、高校にいる日本語学習支援を必要としている児童・生徒のもとへ行き、日本語学習支援、入り込んでの授業支援を行った。

【プロセスと成果】

前期では、小・中学校、高校への日本語学習支援を行った。後期では、前期に引き続き小・中学校、高校へ日本語学習支援を行った。また、F中学校Oさんに向けて、社会の自作教材を作成・実施した。

① F中学校　Nさん
・対象生徒：アフガニスタン出身　中学校2年生（2022年10月から学校支援開始）
・支援内容：国語、社会、英語、技能教科の入り込み支援、数学、理科の取り出し支援
・入り込み支援では、難しい言葉をやさしい日本語や英語訳にして授業に参加できるように行った。また、取り出し支援では、インターネットからの無料の計算プリントを解かせ、算数知識の把握と成長に繋げた。

② F中学校　Oさん
・対象生徒：アフガニスタン出身、中学校3年生（2022年10月から学校支援開始）
・支援内容：社会、英語、技能教科の入り込み支援、国語、数学、理科の取り出し支援
・取り出し支援では、アプリケーションを用いて九九などの計算を行い、社会に出た際に役に立つ知識を身に付けることができた。また、日常会話能力の向上が見られ日本語の間違いを自ら訂正することが出来た。

③ K小学校　Aさん
・対象児童：中国出身、小学6年生（2022年12月から支援開始）
・算数、理科の入り込み
・漢字にふりがなを振ることを行わなくても、自力で単語や文を読めるようになった。

④ S高校　Aさん
・対象生徒：ネパール出身、高校年生（2023年5月から支援開始）
・言語文化、公共、保健の入り込み支援
・日本語能力の向上で板書力と漢字力がアップし、支援者の補足説明なしでも授業理解出来るようになり、テストの点も上昇した。また、信頼関係を築き、分からない部分を聞きやすい関係性を作ることが出来た。

【総括と反省・今後の課題】

① F中学校 Nさん

入り込み支援では、教科の内容の難易度が変わるため、学習用語の増加と支援することが高度化している。そのため、支援者の事前準備が必要になってくる。また、取り出し支援では、対象生徒の教科内容に関する概念や手順の理解が不十分である。例えば、算数では足し算引き算の計算は出来るものの、かけ算割り算の概念や計算方法は乏しいため、概念や手順から学習できるように教えることが必要である。

② F中学校 Oさん

社会、英語、技能教科の入り込み支援はしており、取り出し支援の教科は支援者と行っているものも学習にも限度が存在する。そのため、教科によって学習状況に偏りが発生している。支援者も教えられるように、事前に準備することや教員との連携を怠らないように支援を行うようにする。また、自作教材を実践してみて、意欲的に取り組む姿勢が見られて良かった。他にも、全2回実施したが2回目の時に、1回目で行ったときのことを思い出して振り返ることが出来ており、行う意義を見出すことが出来た。

③ K小学校 Aさん

生徒同士でコミュニケーションを取ることが不足しているため、対象児童とクラスメイトのコミュニケーションの輪を作成するために支援者介入してサポートを行う必要性がある。また、文章を書くことがまだ困難であるため、翻訳機能を使用し、対象児童が何の文を書きたいのかを知り、支援者がやさしい日本語に置き換えて文章を書くことに挑戦させるようにする。

④ S高校 Aさん

社会や古典などの文化的に違いがあるものはイメージしづらいため、今後支援方法を模索して行く必要がある。

全体的な今後の課題としては、その他の機関や学校との対象者の情報共有と連携を怠らないことと支援者が参加しなくても、1人で授業に参加できるようになるために、支援者がサポートしていくことが重要になる。そのため、支援者同士で情報交換を行いつつ、自立を促した支援方法や教材を実践していき、対象者に適したものを見つけていくことが今後の課題となる。

【地域からの評価】

支援や教材作成を通して、支援先の教員の方々からお褒めの言葉を頂きました。

（以下コメント）

「大学生の入り込み支援は、高等学校の必履修科目の習得にとって絶対必要な対応です。通常授業の前後での教科用語・表現の事前準備を綿密に行うことで生徒が学習参加に前向きになり大変有効であったと思います。（準備が大変であったと思います）また、教材の工夫や日本語のインプットとアウトプットの活動が工夫されていた点も大変良かったと思います。」

「継続的に貴重な時間を割いて準備をし、学校まで通い、子供達と真摯に向き合い寄り添ってくれている姿勢には頭が下がります。発表を聞いて課題意識を持って取り組んでいることも分かり感心しました。子供達にとっては年の近い学生さんたちとの触れあいは多面的にも意義深く、自分の将来のロールモデルにもなっているのではないかとも感じています。引き続きの活動に期待しております。」

【その他】

年間スケジュール

4月～　支援活動
8月　中間発表会
10月～　支援活動
11・12・1月　教材作成
2月　最終発表会
　報告書作成